

みと・あかつかカンファレンス

差出人: みと・あかつかカンファレンス <admin@kankan2025.jp>
送信日時: 2019年4月8日月曜日 23:51
宛先: 'kohho52@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp'
CC: '日本栄養士会'; '日本医師会'; '日本薬剤師会'; '日本歯科医師会'; '日本看護協会'; '日本理学療法士協会'; '日本作業療法士協会'; '日本社会福祉士会'; '日本介護福祉士会'; '立川 晶'; '朝倉 洋'; '生田 弦己'; '江川 剛正'; '佐藤 仁彦'; '越田 普之'; '平野 有紀'; '大林 広樹'; '茨城県警察本部'; 'クローズアップ現代 +'; '湯川 英俊'; '池田 剛士'
件名: 通達 (みと・あかつかカンファレンス) *メディア対策室; 安倍晋三 首相案件 (ムチン騒乱) 【信用失墜行為】#京都府京都市

国立大学法人京都大学 御中

学術秘書
池田です。

検事総長に指示し、騒乱罪（刑法 106 条）で公訴いたします。

腸内細菌の制御と腸管粘膜防御には抗体遺伝子の体細胞突然変異が必要である

2011年1

本庶佑 医学研究科客員教授らの研究グループの成果が科学誌「Nature Immunology」の電子版に掲載されました。

研究の概要

抗体が生体防御に効率良く働くためには、体細胞突然変異によって獲得する抗原に対する結合力の増強とともにクラススイッチによって産生されるIgAやIgGの抗原への攻撃力の両者が重要であるといわれている。ヒトのIgA欠損症では自己免疫疾患やアレルギー、炎症性腸疾患などの病態が報告されている。IgA欠損による腸管バリア機能低下のため腸内細菌が免疫細胞を過剰に刺激して、免疫機能の恒常性破たんを惹き起こしていると考えられている。現在までIgA欠損マウスやヒトのIgA欠損症の研究からクラッチが生体防御に重要であることは明らかだが、体細胞突然変異だけが障害されたマウスやヒトの症例は現在まで無く、その重要性をはっきりと示した例はなかった。マウス腸管のIgA産生細胞の抗体遺伝子を調べると、連合とともに体細胞突然変異が蓄積しており、多くの抗原に過去に会って反応してきた結果であることがうかがわれる。ところが、IgAは抗原特異性が低く多種類の抗原に反応して**粘膜バリア**の最前線防御に働いていると考えられており、突然変異は重要と考えられていなかった。



左から本庶客員教授、新藏礼子 長浜バイオ大学 魏民 元日本学術振興会特別研究員 / 現中国東北師範大学生命科学カレッジ准教授

http://www.kyoto-u.ac.jp/static/ja/news_data/h/h1/news6/2010/110124_1.htm

理由:

<https://www.kitasato-u.ac.jp/sci/univ/chemistry/news/n20190125.html>

<http://nokyoko.jp/#norioka>

<http://acsec.co.jp/#首謀者>

では。

この件に関するお問い合わせ先：

みと・あかつかカンファレンス事務局長

ラクトース研究班「いもいち 2025」班長代理

有限会社学術秘書

本店営業部

池田剛士

〒311-4141

茨城県水戸市赤塚 1-386-1-107

電話：029-254-7189

携帯：090-4134-7927

追補：訂正報道新着

<http://kankan2025.jp/>